

小規模事業者 景気動向調査報告書

平成 30 年度第 2 四半期

(平成 30 年 7～9 月期)

延岡商工会議所／中小企業相談所

延岡市中央通 3 丁目 5 - 1

TEL 0982 (33) 6666

FAX 0982 (33) 6682

I. 実施概要

1. 調査対象事業所数	237事業所
2. 回答事業所数	70事業所
3. 回答率	29.5%
4. 業種別内訳	
製造業	6事業所
建設業	10事業所
卸売業	7事業所
小売業	13事業所
サービス業	34事業所
合計	70事業所

5. 実施時期

平成30年 11月

6. 調査対象期間

平成30年 7月～9月（第2四半期）

7. 調査内容

調査対象期間である1四半期について前年同期比、前期比、来期見通しの売上（受注）状況、採算（経常利益）、資金繰り、材料仕入価格、雇用（労働力）状況、設備投資計画、業況の各項目についての状況を調査した（DI値の集計）。

※ DI値（景況判断指数）について

DI値は、売上、採算、資金繰り、仕入価格、雇用状況、設備投資、業況の各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気、弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$

売上：（増加）－（減少）

採算：（好転）－（悪化）

資金繰り：（好転）－（悪化）

仕入価格：（低下）－（上昇）

従業員：（不足）－（過剰）

設備投資：（拡大）－（縮小）

業況：（好転）－（悪化）

8. 調査方法

調査対象事業所に対して、調査票を郵送しファクシミリ及び電子メール等で回収、当所にて集計、分析を行う。

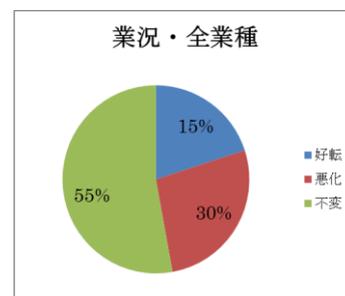
Ⅱ. 概況

1. 全業種の業況

前年同期比のDI値は▲7.1ポイント。

業況が好転したと回答した事業所は20.0%、悪化したと回答した事業所が27.1%、変わらないと回答した事業所は52.9%だった。

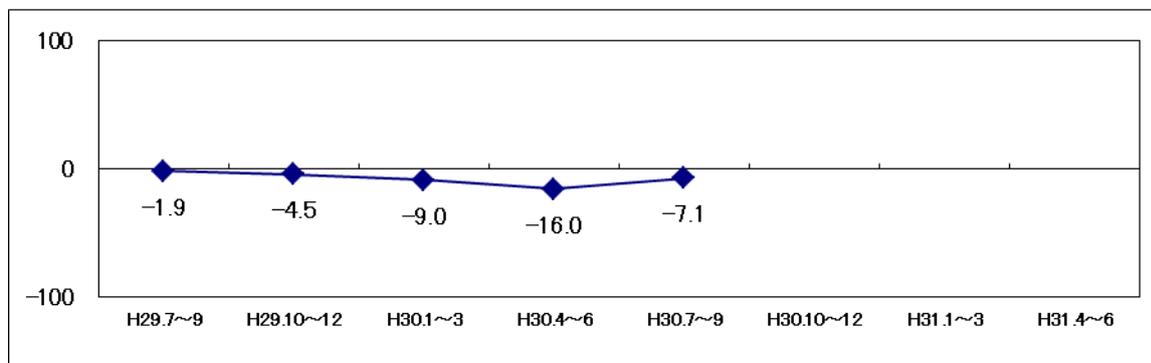
7～9月は、卸売業・サービス業では人手不足による人件費の上昇、競合相手の増加などにより業況は悪化。製造業・建設業・小売業では販路の拡大や営業努力による売上増加や災害復興関連の仕事の受注などにより業況が改善。



来期見通し(10～12月)については、小売業では仕入や人件費の上昇などにより業況は悪化の見通し。一方、製造業・建設業・卸売業・サービス業では季節的要因による売上増加や新規顧客の増加などにより業況は改善の見通し。

	H29.10～12	H30.1～3	H30.4～6	H30.7～9	H30.10～12 見通し
全業種	▲4.5	▲9.0	▲16.0	▲7.1	1.4
製造業	▲25.0	20.0	▲45.5	▲16.7	0.0
建設業	16.7	0.0	▲9.1	20.0	30.0
卸売業	20.0	▲33.3	▲25.0	▲28.6	28.6
小売業	▲25.0	▲31.6	▲35.7	▲23.1	▲30.8
サービス業	▲2.1	▲2.6	0.0	▲2.9	0.0

全業種 DI の推移



2. 業種別の概要

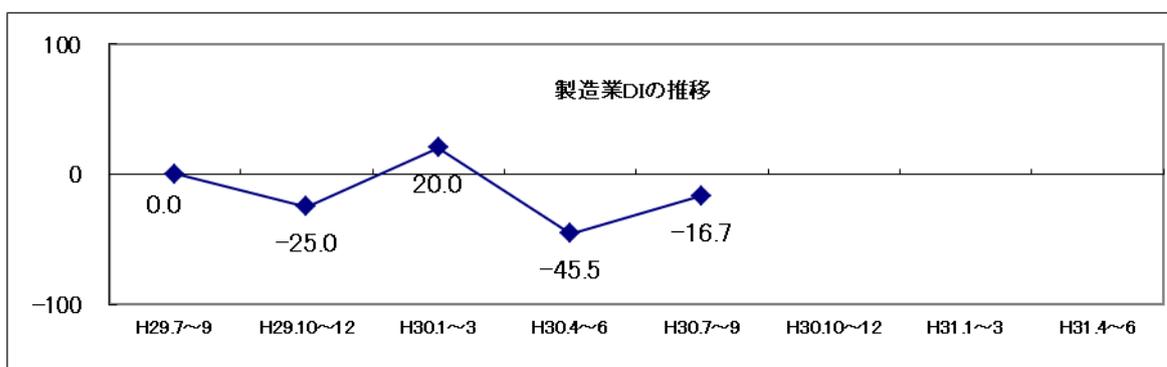
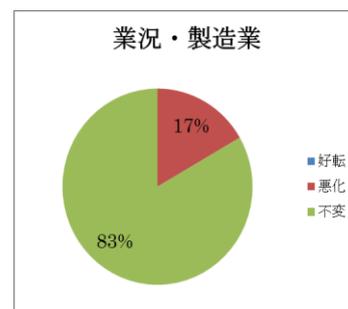
① 製造業の業況判断は、

前年同期比のD I 値が▲16.7ポイント。

業況が好転したと回答した事業所は16.6%、悪化したと回答した事業所が0.0%、変わらないと回答した事業所が83.4%だった。

製造業からは「原料となる水産資源の枯渇と世界的な海水温度の上昇による水揚げ時期の変動とともに水揚げ量が不安定になり大手量販店向けの出荷が減少した」（水産加工業）等が業況を示す意見として挙げられている。

来期見通しD I 値は0.0ポイントで、好転する見通しとなっている。



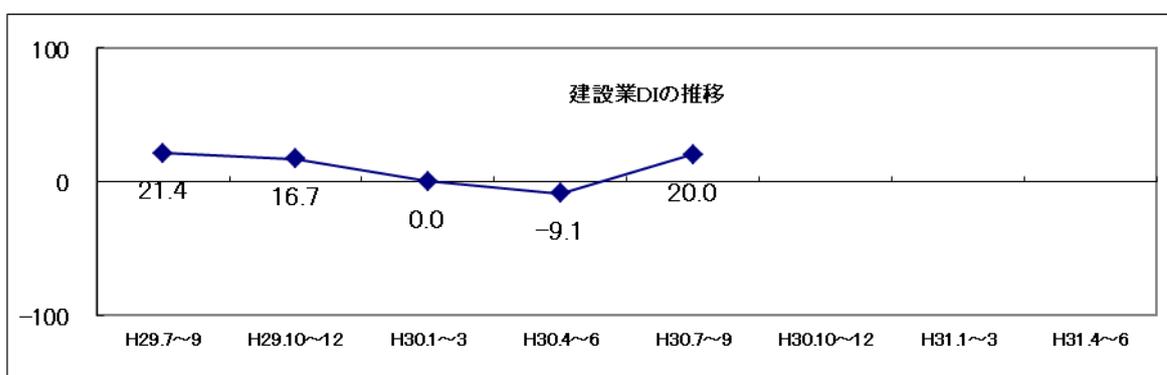
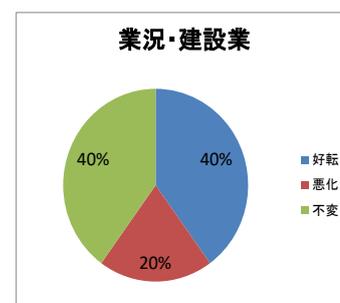
② 建設業の業況判断は、

前年同期比のD I 値が20.0ポイント。

業況が好転したと回答した事業所は40.0%、悪化したと回答した事業所は20.0%、変わらないと回答した事業所は40.0%だった。

建設業からは、「他県への応援（災害復旧等）工事が多かった。単価も地元大手企業よりも高く下請工事を受注できた。」（一般土木工事業）、「前年に比べ得意先が増え好転している。」（一般土木工事業）等が業況を示す意見として挙げられている。

来期見通しのD I 値は、30.0ポイントで、好転する見通しとなっている。



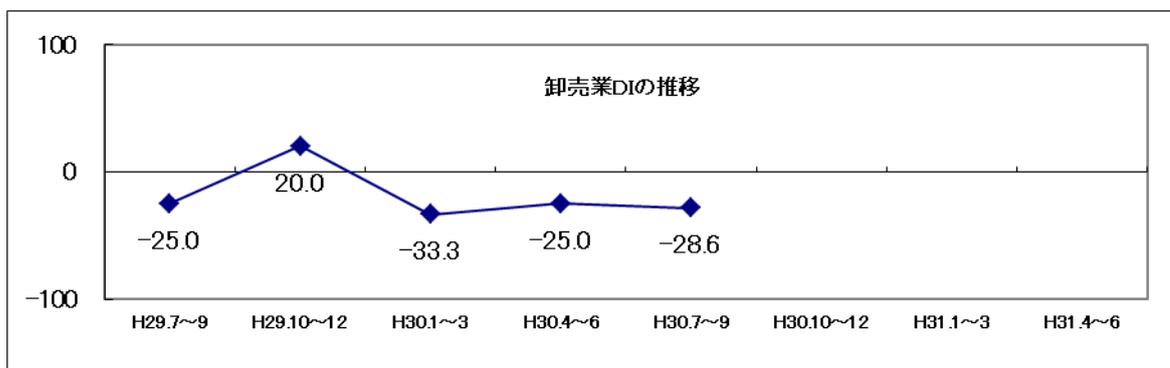
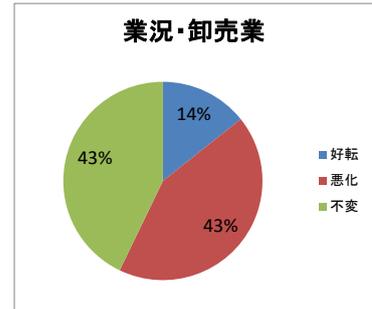
③ 卸売業の業況判断は、

前年同期比のD I 値が▲28.6ポイント。

業況が好転したと回答した事業所は14.2%、悪化したと回答した事業所が42.8%、変わらないと回答した事業所は43.0%だった。

卸売業からは、「売上は増加しているが、仕入も上がり利益率が下がっている。人手不足で時給を上げないと人材が確保出来ない」（生花等卸売業）「卸先のコスト削減による仕入れ先の変更などにより地元卸売業への注文が減少している」（食料品卸売業）等が業況を示す意見として挙げられている。

来期の見通しD I 値は、28.6ポイントで、好転する見通しとなっている。



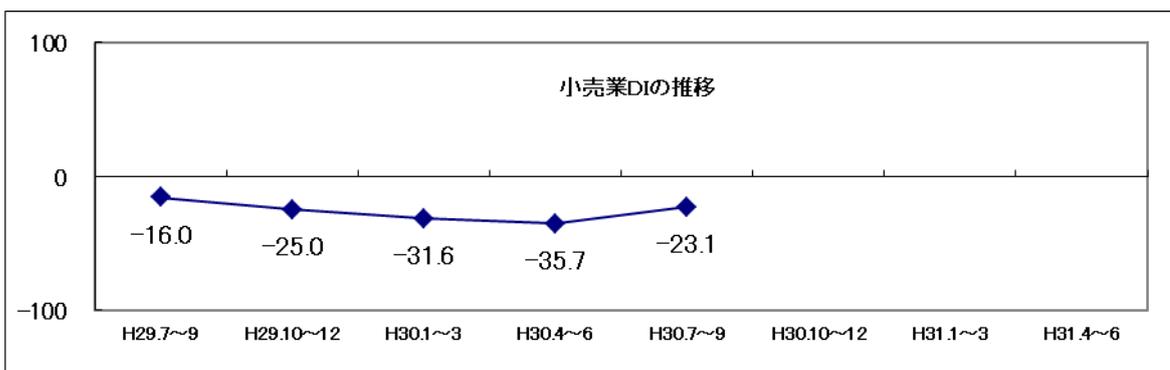
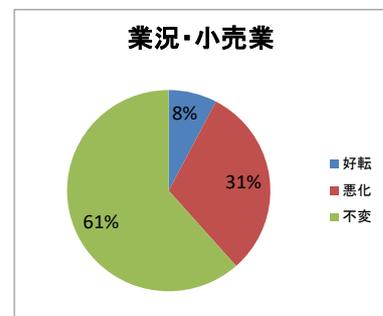
④ 小売業の業況判断は、

前年同期比のD I 値が▲23.1ポイント。

業況が好転したと回答した事業所は7.7%、悪化したと回答した事業所は30.7%、変わらないと回答した事業所は61.6%だった。

小売業からは、「販売会等のイベントへの参加が売上アップに貢献した」（菓子製造小売業）や、「商店街を人が通らない、来店するお客様が少ない」（衣料品小売業）等が業況を示す意見として挙げられている。

来期の見通しD I 値は、▲30.8ポイントで、悪化する見通しとなっている。



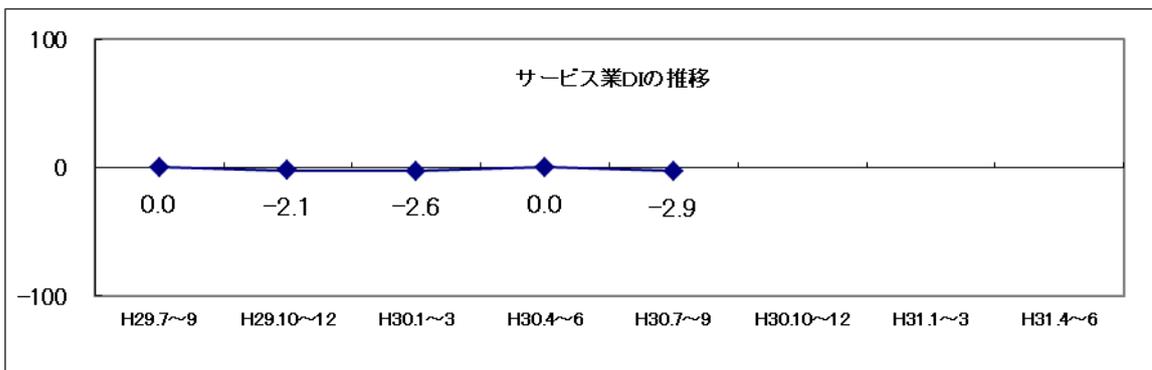
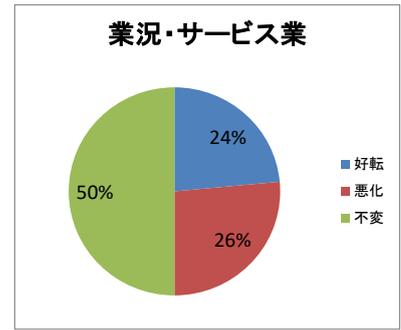
⑤ サービス業の業況判断は、

前年同期比のD I 値が▲2.9ポイント。

業況が好転したと回答した事業所は23.5%、悪化したと回答した事業所は26.5%、変わらないと回答した事業所は50.0%だった。

サービス業からは、「売上に大差はないが仕入と人件費の高騰により厳しい状況」（飲食店）、「今年に入りライバル店が増え競争が激しくなった。また低価格を求めるお客の割合が増えた印象がある」（美容業）等が業況を示す意見として挙げられている。

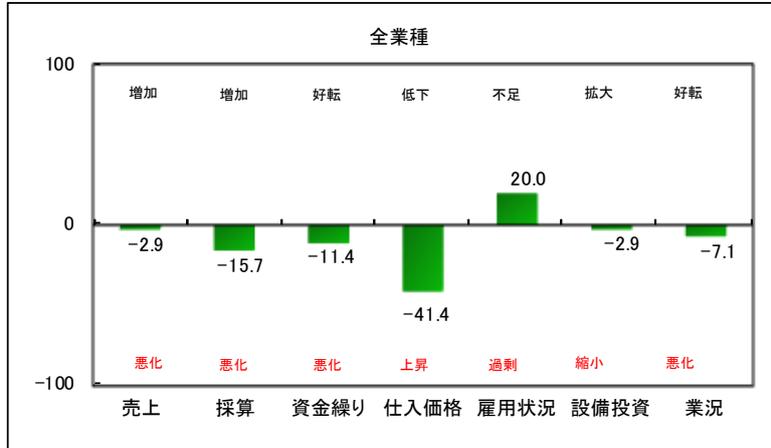
来期見通しD I 値は、0.0ポイントで、好転する見通しとなっている。



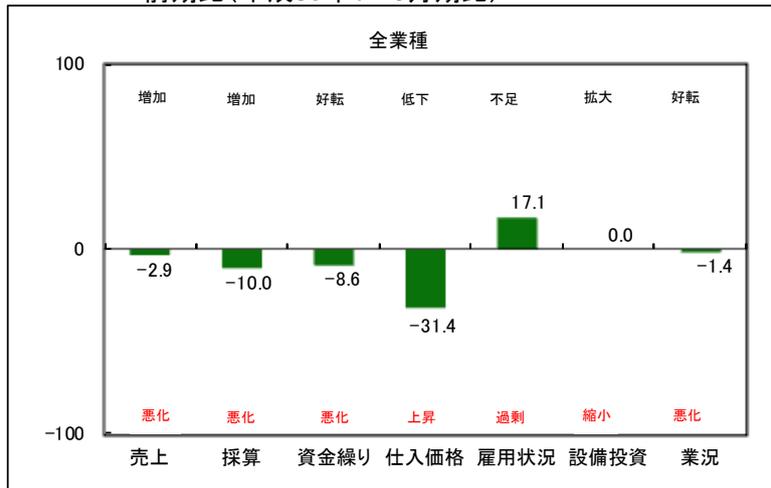
市内景気動向

全業種

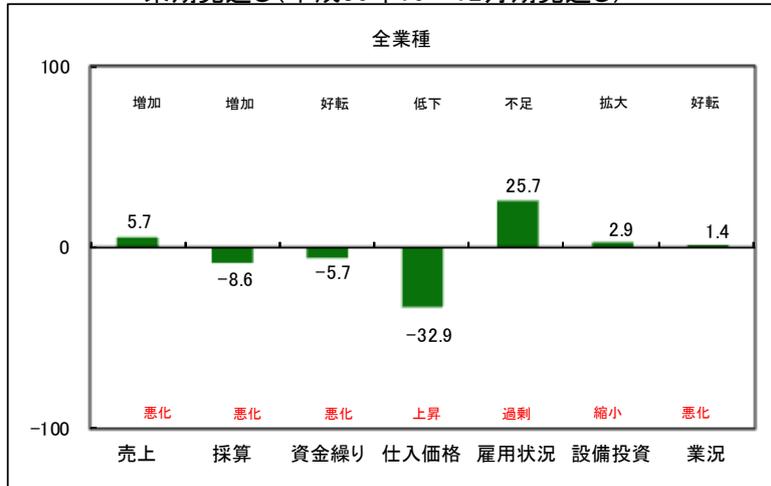
前年同期期比(平成29年7～9月期比)



前期比(平成30年4～6月期比)



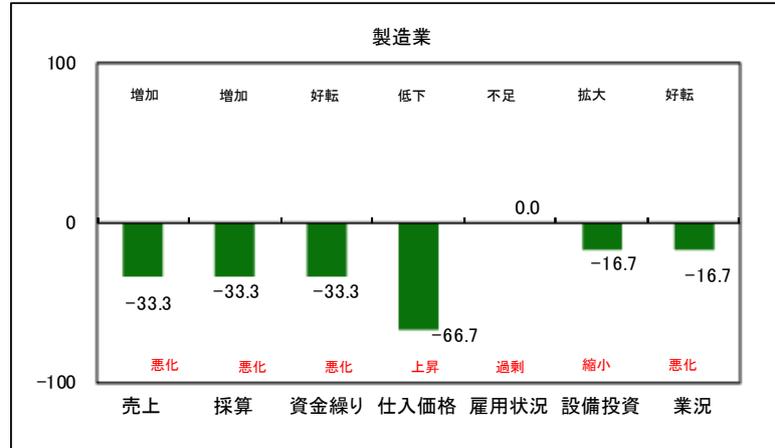
来期見通し(平成30年10～12月期見通し)



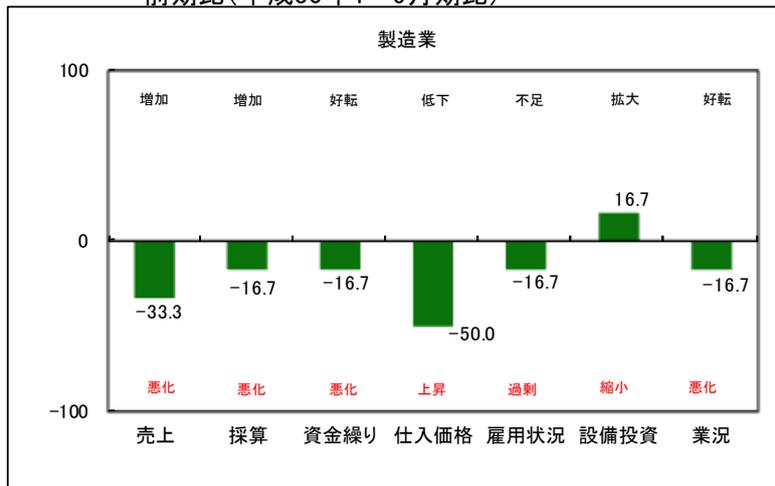
業種別景気動向

製造業

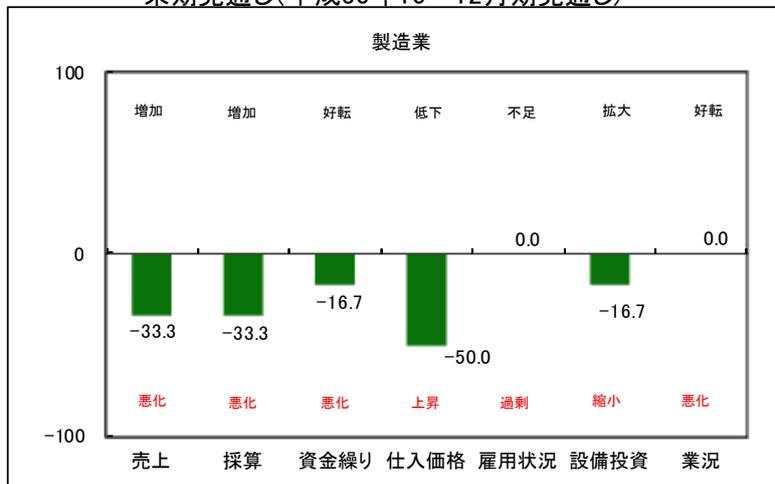
前年同期期比(平成29年7～9月期比)



前期比(平成30年4～6月期比)



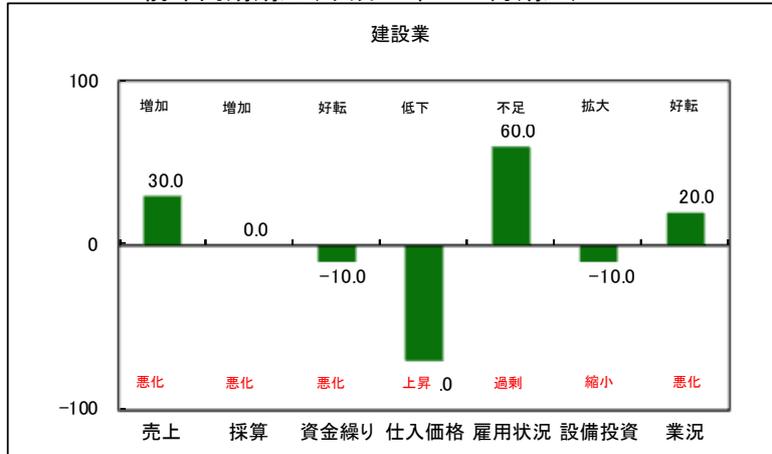
来期見通し(平成30年10～12月期見通し)



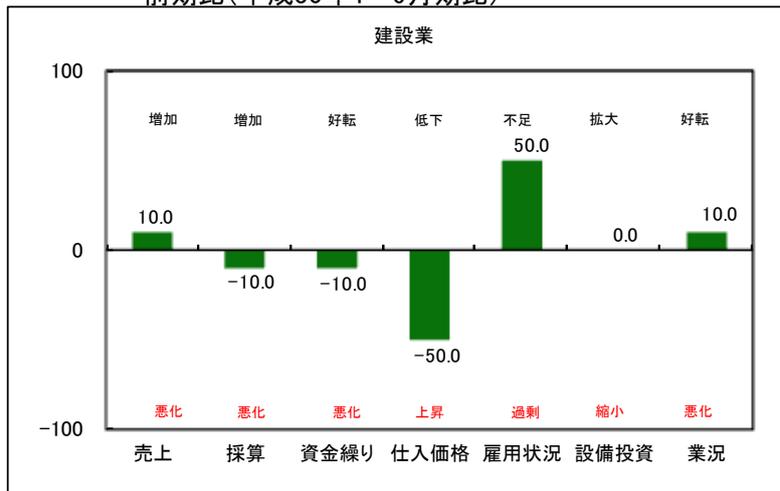
業種別景気動向

建設業

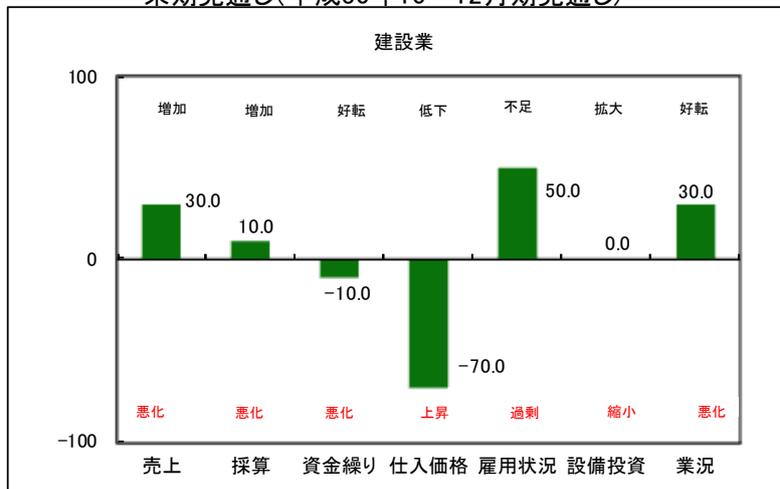
前年同期期比(平成29年7～9月期比)



前期比(平成30年4～6月期比)



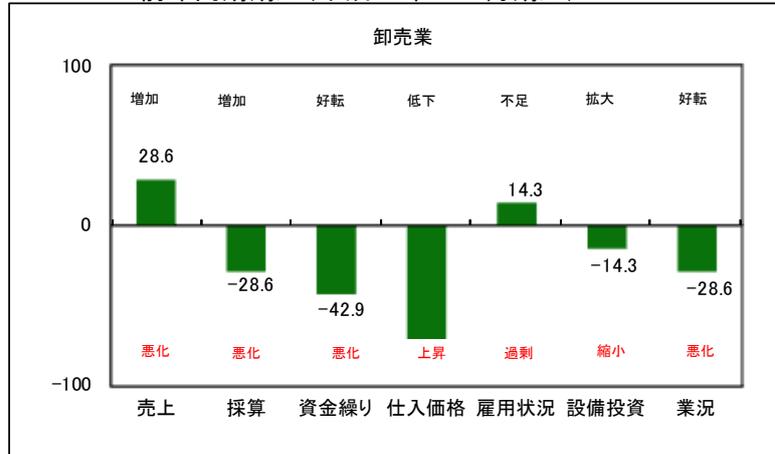
来期見通し(平成30年10～12月期見通し)



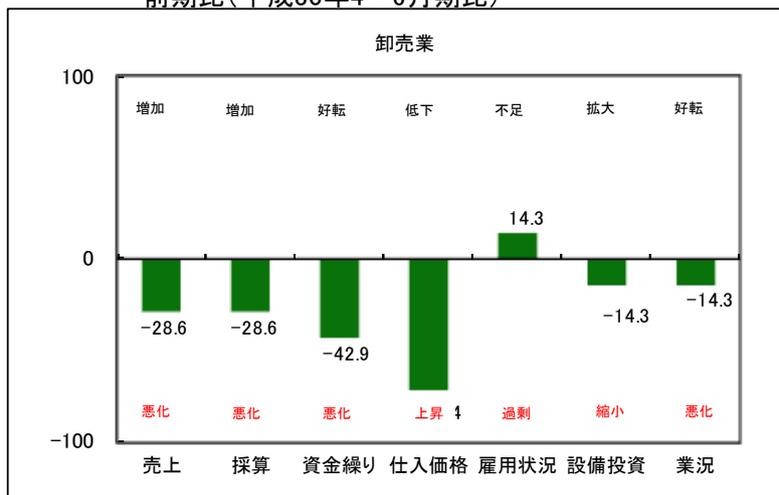
業種別景気動向

卸売業

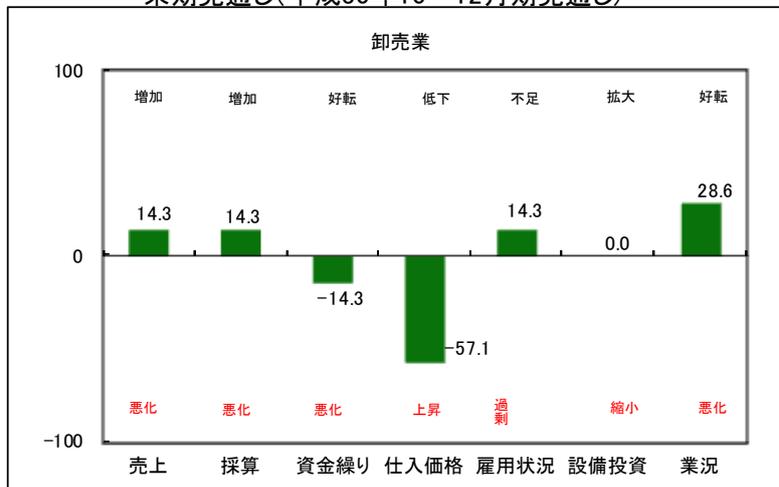
前年同期期比(平成29年7~9月期比)



前期比(平成30年4~6月期比)



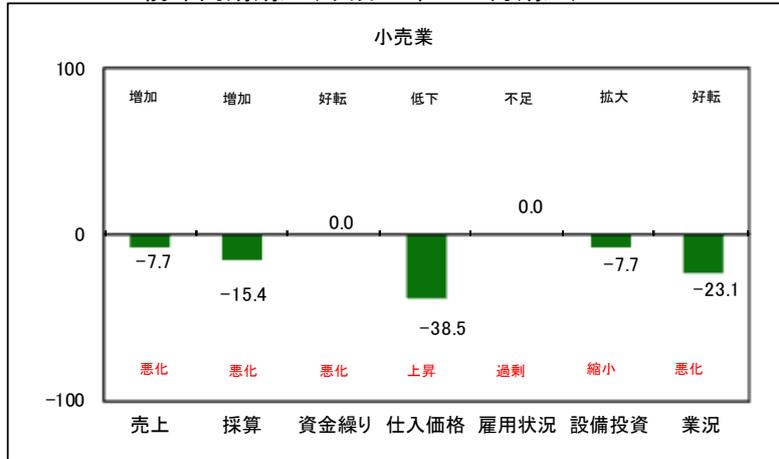
来期見通し(平成30年10~12月期見通し)



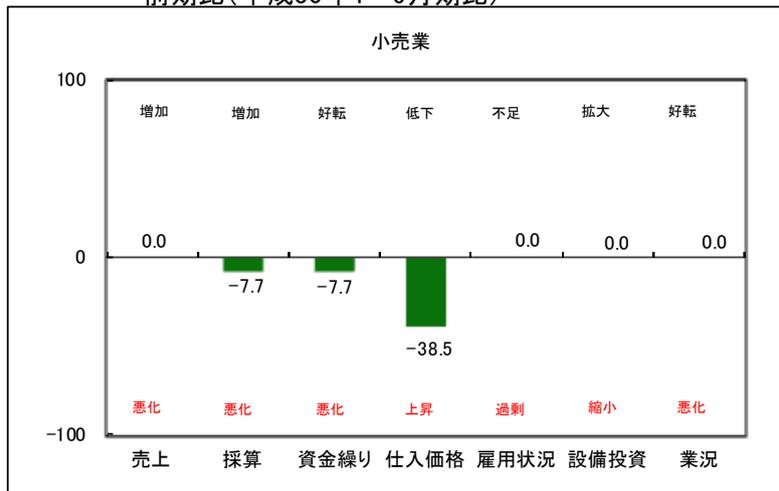
業種別景気動向

小売業

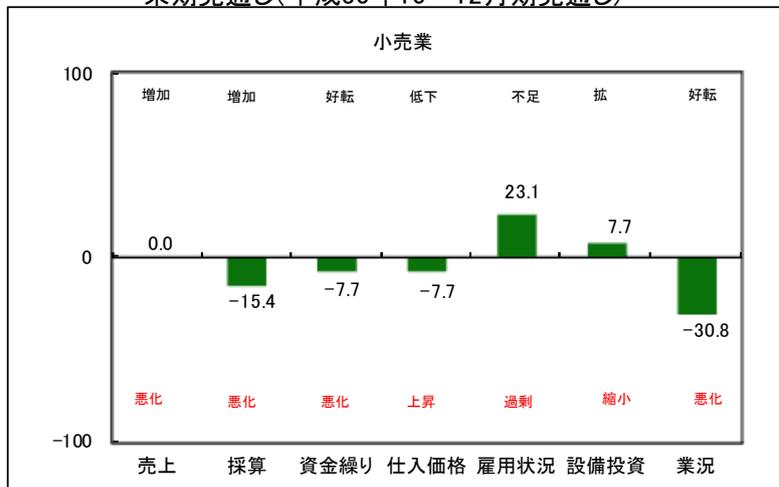
前年同期期比(平成29年7～9月期比)



前期比(平成30年4～6月期比)



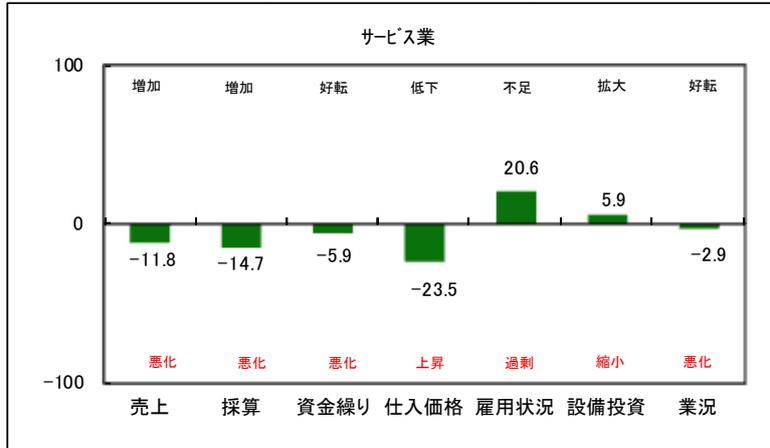
来期見通し(平成30年10～12月期見通し)



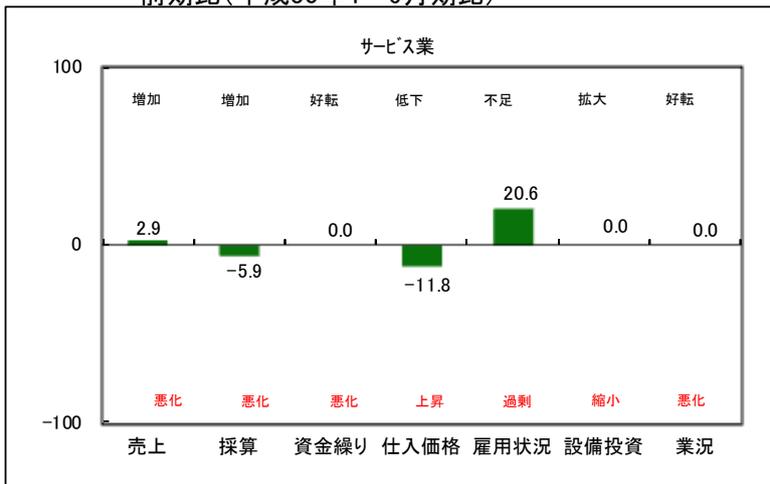
業種別景気動向

サービス業

前年同期期比(平成29年7～9月期比)



前期比(平成30年4～6月期比)



来期見通し(平成30年10～12月期見通し)

